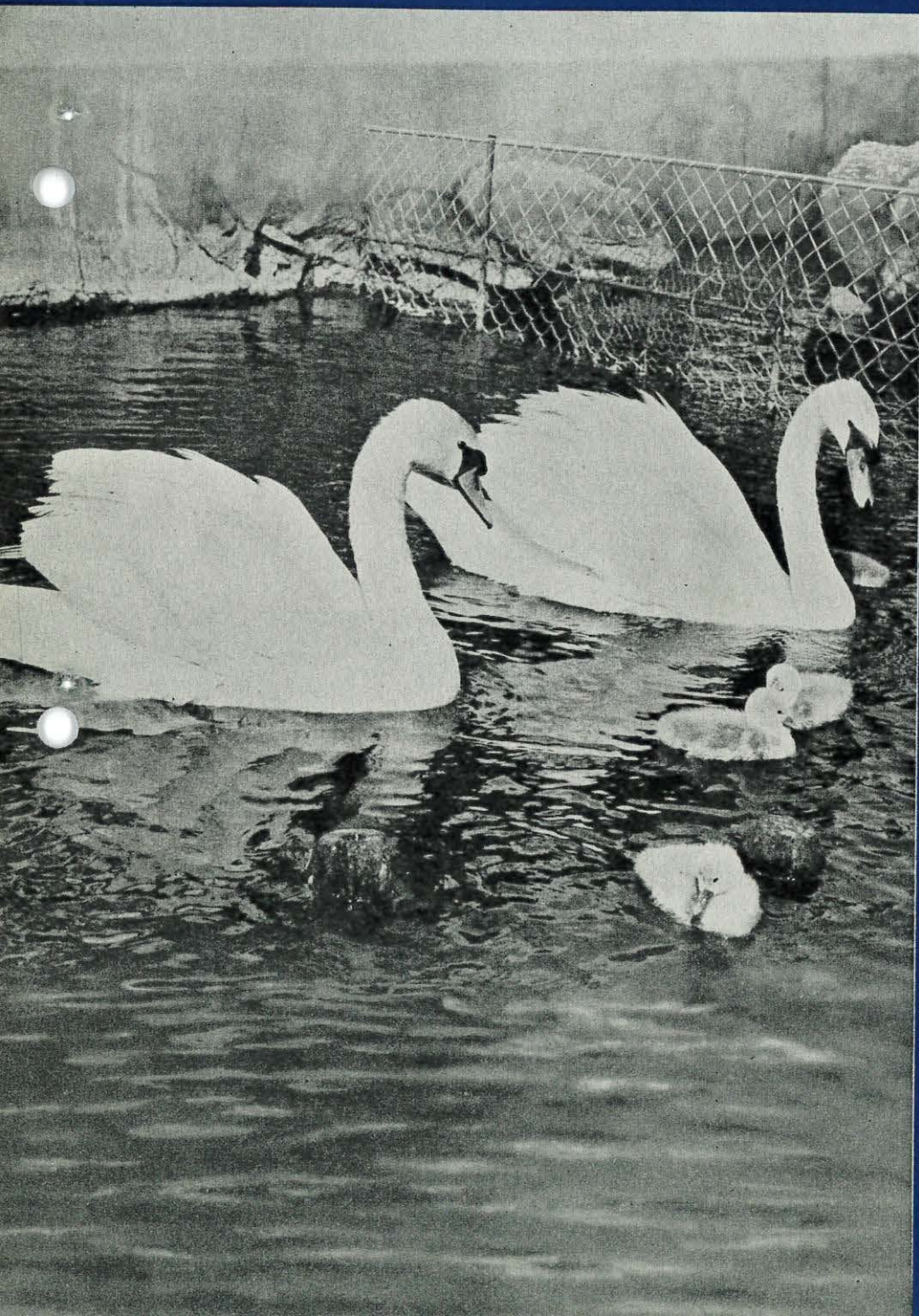


なきごえ



1966



大 阪 市
天王寺動物園

「あかしょうびん」

翡翠目 かわせみ科

ハイキングに絶好の季節が近づきました。緑につつまれた静かな池のほとりや、溪流に体の割合に異ように大きな嘴をもち、鮮やかな色どりをした「むくどり」ぐらゐの大きさの鳥が見かけられます。(翼長100cm~160cm)

この鳥はかわせみの仲間で、この仲間の分布は広く世界に及んでいます。日本でみかけられる仲間は6種類ほどです。

キョロ、キョロと笑うようなかん高い鳴き声に驚かされて、声のした方を追ってゆくと、ずんぐりとした感じの彼が水面に突き出した木の枝や池のくいの上にチョコンと止っているのを見かけます。なかなか人を寄せつけず、近づくとせわしく翼を動かして、水面1m位のところを直線に飛行します。えさをとるときは、気長に待って水面に浮いて泳ぐ小魚を見定め、それとばかりに飛び出し急降下して大きなくちばしで巧みに魚をすくい上げて捕えます。しかし体がずんぐりしているので、左右への反転は極めて無器用です。



あかしょうびん

これは翼が短かいうえに大きなくちばしを前方に突き出しているから、小廻りができにくいのです。ちょっと胴体が太過ぎた模型の727型ジェット機という感じがします。ですから狭い鳥小屋に収容しますと、独得の方法で魚をとる事ができないので、えつきが悪く又少しおく病なところも手

伝って、あわてて飛んで金網に突き当たって得意のくちばしを傷つけて体力を消耗させ倒れることが多いのです。ですから今まで動物園ではひと月と生きていたことがありませんでした。しかし昭和40年8月20日に寄贈を受けた写真の「あかしょうびん」には、入園したときから気を付けて、よくたたくむ所にどじょうの「まきえ」しておいたところ1週間目頃からえさに付き始めました。これはいけると気長に続けているうちに急降下のえさのとり方を全く忘れたかのように、同居の、ゆりかもめ・ばん・ひくいな・しぎなどに交って仲良くどじょうを食べ始めるようになりました。もともと孤独な生活を好むこの鳥がこのような順応性を示すことは珍しいことなので、そのようすを毎日楽しみにして観察していました。生きた、ぬるぬるしたどじょうは小魚と違ってちょっと苦手のようでしたが、今では「しぎ」「かもめ」よりお先に

えさを失敬して安全な所でゆっくり味わっています。又サイの目に切った「あじ」の切り身にも手を出すようになりました。今ではすっかりなれて私たちが金網に近づいてもバタつかずケロリとしています。

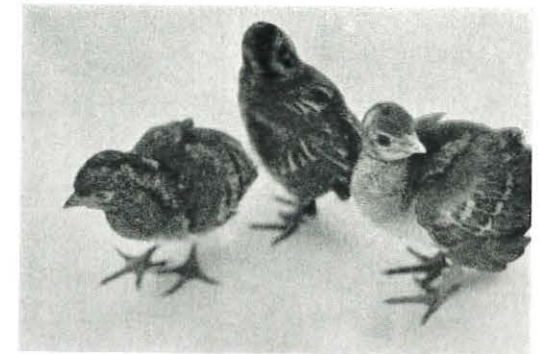
日本にすむ野鳥の中には動物園でまだ飼育のできな

いものがたくさんあります。このようなときに「あかしょうびん」君が元気にえさについて育ててくれたことは愉快でたまりません。彼は今北園の金魚屋さんの隣の小さな水きん舎に元気でいます。ご来園のときにはぜひ彼の健闘ぶりを見てやって下さい。(松岡 恵爾)

なきごえ 3月号 もくじ

動物の紹介 あかしょうびん..... 2
 飼い方シリーズ 3
 動物園グラフ 4・5
 ペットを訪ねて 6
 動物園ニュース 7

人工ふ化(きじ類)
7年の思い出



きじ

孵化の仕事を担当してまだ間もない頃の事でした。今でこそ、卵に光をあててみれば、あゝこれは明朝かえる、これはまた少し遅くなる、と大体の見当がつかますが、その頃は全体が黒く見えるだけで、何の事か判りません。とにかく、くじゃくの孵化は28日ですから、27日目に卵座から発生座へ移すつもりでした。ところが26日目の朝の事です。ふと孵卵器の窓越しに卵座を見ると、ファンが激しく空気をかきまぜている向うに、何やら白いものが動いているのです。雛だ！と直感したとたんに、どうして機械をとめたか覚えていません。雛が動けばファンにかけられて死んでしまう！まさに心臓の凍る思いとはその時のことでしょう。やっとファンが止って、雛は間一髪のところ危い命をとりとめました……。自然は微妙なものです。同日同時刻に入卵したからといって同日同時刻に一斉にかえるとは限りません。2日も早いものもあれば又遅れるものもあります。生命と機械とは違う所以でしょう。

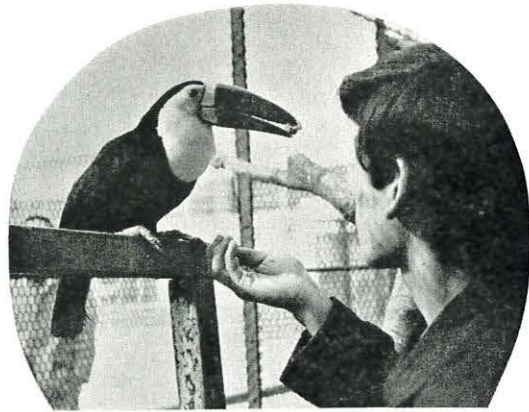
しかし又、外見上何の変哲もない卵の中で、時々刻々、寸時の休みもなく胚が成長し雛になってゆくのを見ていると、脈々たる生命の流れの不思議さと共に、自然の正確な規則正しいメカニズムを感じずにはいられません。けれど時には変り種も出来ます。くじゃくの卵はにわとりよりはるかに大きいのですが、あるとき、丁度にわたりの卵位しかないのがありました。有精卵ではありましたが、おそらく途中で中止になるだろうと思っていますと、意外に嬉しくも雛がかえりました。ところがこれがやはりひどく小さいチビさんです。とても育つまいと思われましたのに、再び意外にも嬉しい事に、このチビさんは非常な勇気の持主だったのです。餌をもってゆくと、真先にとんで来るのがこのチビさんで、誰よりも先に、誰よりもおいしいところをいつもたらふく食べていまし

た。弱い雛は10日遅れ位の次のグループへ入れてやるのですが、このチビさんにはそんな心配は少しもありませんでした。体の大きな仲間に混ってガキ大将の観さえあったのです。チビさんは立派に育ちました。根性！私はくじゃくを育てる度にあの勇ましかったチビさんの事を思い出して微笑ましくなるのです。

しかし雛はもろいものです。注意に注意を重ねても病気におかされる時があります。いたいけな雛の体中で行なわれている薬と病との闘い。たゞたゞ必死に生きようとする雛の生命力にすべての望みをかけて見守っている切なさは泣きたくなる位です。せいらん、にじきじ、ほうかんちょう、貴重な種類程、病気にも弱いようです。殊ににじきじには毎年泣かされます。にじは性質のおだやかない鳥です。仲間ケンカもしませんし、人には余りなつきませんが、その代り、とても物わかりがよくて、バタバタする事ありません。鳥としては扱いよいのですが、たゞこの鳥の生息地はヒマラヤの高地なのです。涼しい、風通しの良いところに住んでいた高山性の為か、日本の夏に弱いのは当然の事で、殊に雛は病気にかかり易い状態になります。他の鳥の二倍も三倍も気を使っても、やはり倒れる雛が出て来ます。しかし又そこにやりがいがあるともいえます。誰もまだかえした事のない鳥を、自分の手でかえし育ててみたい！それは孵化の仕事にたずさわる者が誰でも抱く夢です。(礒田 啓子)

動物園グラフ

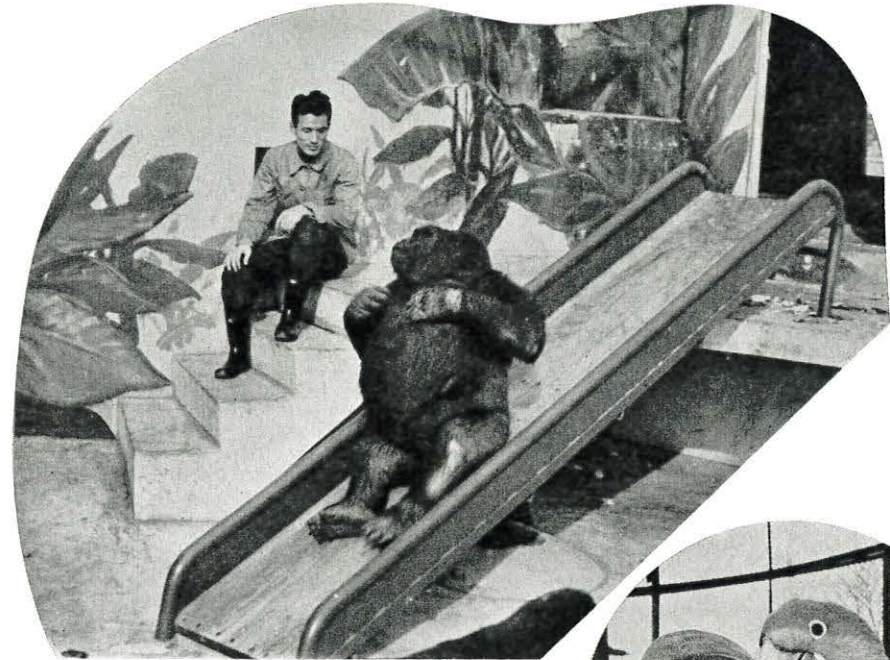
“仲よし特集”



ただいま、オチョボ口にてお食事中（しろむねおおはし）



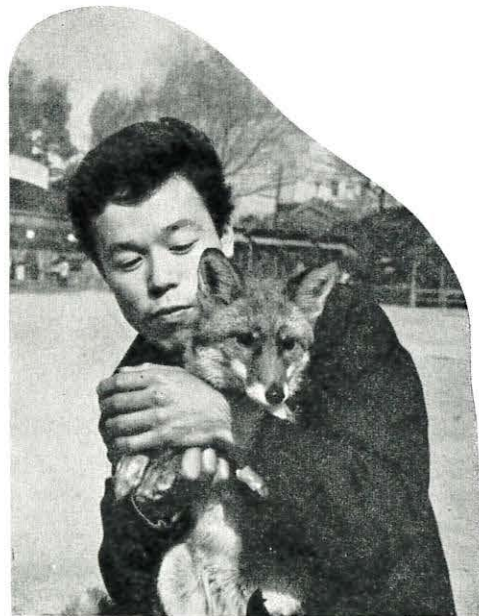
散歩のあとではお相模のけいこ（ライオンのベルちゃん）



すべる！すべる！こりゃたまらん
さっそく得意の胸叩（ゴリちゃん）
ドラミング



すべっても大丈夫やろうな!!



こんちゃんチョッピリすまし顔（きつね）



かもしか園には春の日がーばい（くろかもしか）



お早ようさん、今日も元気でね
（ヒヤシンスマコウ）
（写真と解説松岡）

2月 動物園日記

- 2 節分を迎えた動物園では、動物代表のチンパンジーのキャンディちゃんが、市内の幼稚園児たちといっしょに、仲間達が悪い病気にかからないようにと「豆まき」を行いました。
- 7 全国的な寒波がおそいました。しろくまやペンギンは大よろこびでしたが、熱帯産の動物たちはふるえあがりました。
- 9 ペンギン池のフンボルトペンギンが気のうや、肺にかびが繁殖する病気になってしまいました

- 10 ので、別室に入れて治療をはじめました。
あかカンガルーが交配しました。
3月10日頃に出産する予定です。
フンボルトペンギンが産卵しました。
- 11 かもしか園のとびかもしかが、ものに驚いて寝小屋の鉄柵に激突し、頸骨の脱臼という大けがをしてしまいました。
- 12 かねて治療中のたんちょうのめすは食欲も元気も除々に回復してきました。
- 16 朝日テレビが動物たちの食事風景を撮影しました。

- 18 大けがをしたとびかもしかは、けんめいの治療の結果やゝ元気をとりもどしはじめました。
- 19 ヨーロッパこうのとり（S39年ふ化のもの）が食道に魚の骨のかたまりがつまって、えさが食べられなくなり死にました。
- 20 きりんの赤ちゃんのリリーちゃんの下あごの腫れは一時かなり大きく腫れて元気もなくなり心配させましたが薬の効果がですっきりよくなりました。
- 21 チンパンジーのチェリーちゃんが妊娠したらしいとのことで、うさぎを使って妊娠鑑定を行い

- 23 ましたところ、たしかに妊娠と診断されました。寒波が再びおそいましたが、動物たちはみんな元気にしていました。
- 24 チンパンジーとヨーロッパおおかみのおめでたを市民の皆さんに新聞紙上で発表しました。
- 25 近畿の動物園獣医師の研究会が天王寺動物園で行われ、有益な研究が発表されました。
- 27 オランウータンの早めすが入園しました。

瀬戸内海潮声山耕三寺
広島県生口島瀬戸田町

耕三寺 弘三 さん

広島県尾道から水中翼船で約20分、瀬戸内のミカン畑の点在する美しい島々を眺めながら生口島の瀬戸田港に着く。ここには「西の日光」といわれ、又、いんこの蒐集日本一という耕三寺がある。京都紫宸殿の御門と同じ様式の華麗な山門で案内を乞うと、丁度防火演習指揮の最中だった弘三さんのところへ案内された。この耕三寺は「おじ」の耕三さんが御母様への孝養心から建立を始められたそうで、その敷地約4万平方メートルの広大な地に昭和11年から次々に飛鳥、奈良、平安、鎌倉、江戸等の各時代のわが国の代表的仏教建築からその様式や手法をとって復元し、一山に総合再現されたものでその建築の美しさは風光明媚と相俟って例えようがない。

この極楽の地に数多くの世界各地から集められたインコやきじたちがエンを競っているわけだ。「趣味で飼ったのが始まり。しかし、ただ飼うだけではと思ってここを訪れる小中学生の情操教育に役立てたいと数を増やしていきました。今では超大型禽舎2コと大小50コの禽舎があって大はオーストラリア産のエミューやインドのくじゃくなどから、小はカナリヤに至るまで、世界各国の鳥たち約250種、約400点を飼っています。特にインコの多いことは自慢の一つで恐らく東洋一でし



弘三寺全景



弘三さんとセントバーナード犬

ょう。」

多数の善男善女で賑わう境内には、成程、インコとさいちょうの種類が多いのが目につく。今まで見たことのない鳥たちばかりだ。その豊富さに感心すると同時に管理の行届いているのに驚く。動物たちの世話は何人位で？とお聞きすると「二人です」とのこと、余りの少なさにビックリした。きっとここで働く人々は、自我も打算もない、ただただ、己を捨て、ただ愛の心一筋に生きる母の愛のように動物たちを育てはぐくんでおられるのでしょう。弘三さんご自身も小屋作りから動物たちの世話までされるそうだ。

「ここは動物たちの天国です。年中暖かくそのうえ空気は澄んでいます。私はこの動物たちの理想境でモットモット増やして次代をになう小国民たちの情操教育の資料にしたい」と語られる。毎年そのために人工ふ化した鳥たちは、各地の学校や施設に贈られて、その夢を一步一步実現しておられる。昨年は動物視察のためにアフリカまで足をのびされた。さぞその胸はふくらみ、又、一歩大きく前進することでしょう。御多忙の身とて、最後に写真をお願いすると、犬舎の前に立たれた弘三さんに、金網越しに先程からセントバーナード犬が盛んに尻尾を振りながら愛嬌を振りまいていた。

(中川 道朗)

★ やよい3月動物園はおめでたブーム

むせるような陽気が続くこのごろ、当園の桜のつぼみもふくらみはじめたようです。

春のムードにおめでたのきざしがみえる動物も多いここに一つ二つ紹介しましょう。

☆チンパンジーのその名も「チェリーちゃん」(9才)がちかごろ妙にいらしたり、すっぱい果物を喜んだり、ときどき「はきけ」を催す症状をみせたりするのでスワコソ二世懐妊とばかり、妊娠鑑定をしたところやはりみごもったことがたしかめられました。年下の「夫君」リカ(7才)との間に「愛の結晶」が宿ったのは昨年11月で出産は7月末の予定(妊娠期間約8カ月)。無事二世誕生となれば、戦前の「名優」ミリタ嬢につぐ園はじまって以来2番目のこと。全国でも、八頭目の「本邦産」となるわけ。

とらぬたぬきの皮算用ではありませんが、うまくいけば、この秋ごろには、現在人気を呼んでいる「キャンディ嬢」、3月末入園がきまっているチンパンジーちゃんトリオを組んでの活躍をおみせできるかも知れません。次のような名前はどうでしょうか？「トリオこいさんズ



日本の動物園におけるチンパンジーの出産状況
大阪 死産 1 (日本最初)
京都 1
福岡 1
犬山モンキーセンター 1
神戸 3
大阪 1? (八頭目)

☆ 昭和39年3月にやってきた「ヨーロッパおおかみ夫婦」(当時1才半)にもオメデタが近く、3月10日前後出産の予定です。現在上野動物園に1頭飼育されているだけで、無事出産ということになれば、わが国では初めてだけに係員は今から「ワクワク」しています。



☆ 「オシドリ黒鳥」も係員が投げ入れたワラを一ヶ所に集めて巣造りをはじめたようです。

その名のおりくちばしが赤いだけで全身黒色ですが、白鳥の仲間です。4月ごろには親の毛色とはちがう薄茶の綿のような羽をつけた「赤ちゃん黒鳥」が池に浮かびスイー、スイー、と泳ぐ姿がみられると思います。

このごろは「山が笑う時節」とか、そうです！「動物園が笑う」のです。元気な子供たちの笑い声とあいまって。 さあ「春本番」!

昨年の黒鳥親子



☆春を迎えて「おばあさんエミュー」全快

「がんばれエミューさん」「老妻病重し」などと去る1月8日の朝刊紙上で報道され、又本誌1月号ニュース欄では「快方に向かう」とお知らせしました治療中のエミューが全快しました。

若いときには「草原の弾丸」などといわれ、時速50キロ近くのスピードで走るエミューも35才(人間でいえば75才位にあたる)の寄る年波には勝てず、エミュー舎から暖房完備の「特設ドック」入りしたのが1月5日、それから退院までの間、園長以下動物園獣医さんの、タマゴの黄身や牛乳、ビタミン剤で作った特別食、強心剤の入った注射器などを携えて、連日の「特設ドック参り」。加えて幼稚園児たちが好物のリング、ミカンなどをもっての心暖まるお見舞いの心が通じてか、無事退院の運びとなりました。が、なんといってもこの「エミューおばあさん」は天王寺動物園での「大阪ぐらし」30年のキャリアを誇っており、春になるとよい子たちの遊び相手になろうと「ドックなどに入っておられますか」との「ド根性」が大きいものをいったのでしよう。

ドウデスこの立派な「浪速っ子」ぶり! 拍手を送ってあげて下さい。

